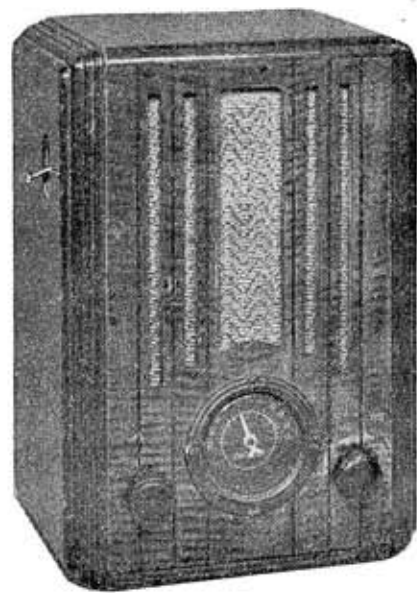


静かなる引退

ナショナルラジオR-21について



織田隆雄

R-21、なくなった私の祖父（和歌山県の片田舎に住んでいました）が購入したものです。祖父の家は当時の私の住居から、汽車やバスを利用して、約二時間もかかったので、当時小学生だった私が祖父のもとに遊びに行くのは、年数回の学期休みだけだったので、購入した時期ははっきりしませんが、昭和十二年〜十五年頃ではないかと思えます。

再生式並四球というR-21の形式は、当時の標準型でしたが、田舎のラジオはリング箱のような（誇張ではなく）大きな箱の上に、さらにスピーカーボックスがのっかった古めかしい形式が普通だったから、R-21の小さくスマート

な形と、高感度の性能は、人びとを驚ろかせたようです。（現在のラジオを見た目からすれば、ずい分ドロクサイ感じがしますが）小学生当時の私の目には、他のラジオにくらべて、スマートな最新式のキカイとしてうつつたのを、はつきり記憶しています。

祖父の家はお寺でしたから、R-21をきく時は、みんなその前に並んで、正座して聞いていたのを覚えておきます。

日支事変はすでに始まり、軍国主義はなやかな報道が、R-21のスピーカーから流れておりました。

中学三年頃（昭和十九年）から私は、ラジオに興味を持ちはじめ

ましたが、自宅のラジオをいじるだけではあき足らず「修理してあげるから」と称して、祖父の家からこのR-21を持って帰り、シャーシを取り出し、配線をためつすがめつ眺めまわしたのを覚えています。

当時は大東亜戦争の末期で資材が極度に不足していたので、新しいラジオは（回路技術の上ではやや高級化し、高周波一段増幅式が一般化していましたが）機構的に、実にオソマツ至極なものでした。

スピーカーのフレームはボール紙製、ひどいものになると、シャーシがボール紙製で、銀色塗料をぬつたものさえありました。日本式トランスレス真空管や、大きな紙の

ケースに入った電解コンデンサがあらわれて、新型ラジオは故障が続出したものです。

わがR-21はこれにくらべると実にガツシリと、しかもきれいに作られていましたし、故障もずつと少なく働きましたので、当時の合言葉々昔のものはよかつたナァクというのが、R-21にもあてはまるように思います。（この感じがおわかりにならない方も多いでしょう。今の常識から言えばウソのような話です）

このR-21は何度か空襲警報を伝えてくれました。私たちはそれに従って、防空ゴウクと称する地下の穴ぐらへ逃げこんだものです。

米価一升当りの値段
のうつりかわり

明治元年 (1868)	大正元年 (1912)	昭和元年 (1926)
6 銭	20 銭 7 厘	37 銭 6 厘
2年 9 銭	2年 21 銭 4 厘	2年 35 銭 1 厘
3年 9 銭 2 厘	3年 16 銭 2 厘	3年 30 銭 8 厘
4年 5 銭 6 厘	4年 13 銭 1 厘	4年 28 銭 9 厘
5年 3 銭 9 厘	5年 13 銭 7 厘	5年 25 銭 3 厘
6年 4 銭 8 厘	6年 19 銭 8 厘	6年 18 銭 4 厘
7年 7 銭 3 厘	7年 32 銭 5 厘	7年 21 銭 1 厘
8年 7 銭 3 厘	8年 46 銭 7 厘	8年 21 銭 4 厘
9年 5 銭	9年 44 銭 3 厘	9年 25 銭 9 厘
10年 5 銭 6 厘	10年 30 銭 7 厘	10年 29 銭 6 厘
11年 6 銭 5 厘	11年 35 銭 2 厘	11年 30 銭 4 厘
12年 8 銭	12年 32 銭 4 厘	12年 32 銭 2 厘
13年 10 銭 8 厘	13年 38 銭 5 厘	13年 34 銭 2 厘
14年 11 銭 2 厘	14年 41 銭 5 厘	14年 37 銭 1 厘
15年 8 銭 9 厘		15年 43 銭 2 厘
16年 6 銭 3 厘		16年 43 銭 4 厘
17年 5 銭 1 厘		17年 43 銭 3 厘
18年 6 銭 5 厘		18年 45 銭
19年 5 銭 6 厘		19年 47 銭 3 厘
20年 5 銭		20年 78 銭 5 厘
21年 4 銭 9 厘		21年 2 円 65 銭
22年 6 銭		22年 9 円 82 銭
23年 9 銭		23年 28 円 94 銭
24年 7 銭		24年 51 円 66 銭
25年 7 銭 2 厘		25年 58 円 19 銭
26年 7 銭 4 厘		26年 73 円 32 銭
27年 8 銭 8 厘		27年 83 円 64 銭
28年 8 銭 9 厘		28年 91 円 73 銭
29年 9 銭 7 厘		29年 103 円 05 銭
30年 12 銭		30年 103 円 15 銭
31年 14 銭 8 厘		昭和31年 (1956) 103 円 24 銭
32年 10 銭		
33年 12 銭		
34年 12 銭 3 厘		
35年 12 銭 7 厘		
36年 14 銭 4 厘		
37年 13 銭 2 厘		
38年 12 銭 8 厘		
39年 14 銭 7 厘		
40年 16 銭 4 厘		
41年 16 銭		
42年 13 銭 2 厘		
43年 13 銭 3 厘		
44年 17 銭 3 厘		



やがてR-21は疎開荷物とともに、祖父の家にもどって行きまし
た。それからしばらくして(敗戦
の一カ月前)当時の私の家は、空
襲で焼失してしまつたのです。
焼け出された私たち一家は祖父
の家に避難し、ここに住みつくこ

後、家人の私室に、あるいは今
第一線を退いたR-21はそれ以
す。 現役の座にあって活躍したので
す。

今ふたたび誕生の地、松下電器
前、戦中、戦後を通算して、約十
九年間働きつづけたことになりま
すが、激しい動乱のまっただ中に
あつて、時代の声を流しつづけた
のです。

四課・第三研究室
(無線事業本部・研究部・材料
部……)
このR-21は今日の最新型ラジ
オを眺めながら、こう言うかもし
れない。「十年先きになると、僕
の気持がわかるだろう」と。

とになり、R-21
と再会したわけ
です。
敗戦後の苦しい
時代、このR-21
の同じスピーカー
から、民主主義の
PRが流れ出てい
ました。R-21は
昭和二十八年ごろ

日でいうところの第二のラジオと
して、入院した家人の枕辺につき
そつたりして働きつづけました
が、昭和三十二年ごろからブーム
となつたポータブルラジオが家庭
にはいり、その便利さを誇示する
に及んで、ようやく納屋の片すみ
に身をおちつけたのです。(トラ
ンジスタラジオが氾濫しはじめた
のはこれから少し後のことです)

株式会社のもとに戻つた感慨は、
いかなるものであろうかと思われ
ます。
時代の流れもさることながら、
その間に見聞きした、技術の激し
い進歩に驚ろいたことでしょう。
受信機方式の変遷、感度の著しい
向上、わずかの間にトランジスタ
が、ラジオの世界から真空管をほ
とんど追い出してしまつたことな
ど……。